

熊本高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	哲学
科目基礎情報						
科目番号	0004		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	授業		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	共通教育科 (八代)		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	特に指定しない。講義資料を配布する。/参考資料は適宜紹介する。					
担当教員	小林 幸人					
到達目標						
1. 哲学的思考方法を理解し、具体的問題に対して適用できる。 2. 認識論について、さまざまな考え方を理解し、説明できる。 3. 科学技術と社会、環境の関係について、さまざまな考え方を理解し、説明できる。 4. 自分の問題意識に基づき考察し、主張を提示することができる。 5. 課題に対して主体的に取り組むことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
1. 哲学的思考方法を理解し、具体的問題に対して適用できる。	授業で取り上げた哲学思想について、自分の視点からとらえた具体例に適用し、説明することができる。		授業で取り上げた哲学思想について、具体例に適用し、説明することができる。		授業で取り上げた哲学思想について、具体例に適用することができない。	
2. 認識論について、さまざまな考え方を理解し、説明できる。	認識の真理性に関する議論について理解した内容を文章でわかりやすく説明することができる。		授業で取り上げた内容について、用語・概念を正しく用いて文章にすることができる。		授業で取り上げた内容について、文章で説明することができない。	
3. 科学技術と社会、環境の関係について、さまざまな考え方を理解し、説明できる。	科学技術の与える影響、社会との相互作用について理解した内容を文章でわかりやすく説明することができる。		授業で取り上げた内容について、用語・概念を正しく用いて文章にすることができる。		授業で取り上げた内容について、文章で説明することができない。	
4. 自分の問題意識に基づき考察し、主張を提示することができる。	独自の問題関心から考察・主張を提示することができる。 小論文の作成技法を身に付け、主張を説得的に提示できる。		自分の視点から考察した内容について、文章でわかりやすく提示することができる。		自分の視点から問題を考察し、文章で提示することができない。	
5. 課題に対して主体的に取り組むことができる。	自習課題について、自分の視点から考察することができる。 自習課題をすべて提出する。		自習課題について80%以上提出する。		自習課題提出状況が80%未満。 ※ 不合格となる。	
学科の到達目標項目との関係						
本科到達目標 4-1 本科到達目標 5-1						
教育方法等						
概要	哲学的な思考方法を理解し、論理的に考察し、説明するためのスキル向上を図る。 今年度取り上げるテーマは、認識論および科学技術論である。					
授業の進め方・方法	講義中心で行うが、事例に即し、あるいは提示されたテーマに関して受講者に考察、表現させることもおこなう。また、思考訓練を兼ね、アクティビティを実施することもあるため、積極的に授業に参加してほしい。					
注意点	学修単位科目 (15時間の授業に対して30時間の自学自習が必要) のため、授業中に課す課題の80%以上の提出がない場合、試験とレポートにより算定する成績に関わらず、単位を認定しない。 授業で説明されたことを聴いて理解できたと思うだけでなく、理解した内容を具体的に用いることができるよう、自習課題等に取り組むこと。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス：問題提起 認識論のアポリア		近代哲学の認識論上の問題について理解し、説明できる。	
		2週	近代的世界観と自然科学的認識論		近代的世界観の特徴と自然科学的態度との関係について説明できる。	
		3週	主観-客観構造と認識論上の問題		認識論の問題の背景となる主観-客観構造について理解し、説明できる。	
		4週	カントの認識論：哲学的認識論 (1)		カントの認識論 (純粋理性批判) の概要について理解し、近代認識論をどのように乗り越えようとしているのか説明できる	
		5週	フッサールの認識論：哲学的認識論 (2)		フッサールの認識論の概要について理解し、説明できる。	
		6週	認識の言語論的構成		言語論 (ソシュールなど) の基本について理解し、認識とのかかわりについて説明できる。	
		7週	社会構成主義		社会構成主義の概要について理解し、特にリスク問題と関連させながら説明できる。	
		8週	〔中間試験〕		前半の学習内容について理解度を確認する。	
	2ndQ	9週	科学・技術と社会との関係 (1)		現代社会における科学・技術の問題を考察する背景や意味について理解し、説明できる。	
		10週	ハイデガーのテクノロジー論 (1)		近代テクノロジーに対する否定的見解について理解し、説明できる。	
		11週	ハイデガーのテクノロジー論 (2)		ハイデガーのテクノロジー論に基づき、現代社会の種々の問題について検討し、自分の考えを述べる。	
		12週	テクノロジーの影響：政治・経済活動への影響		テクノクラシーなど、テクノロジーの発達が政治、経済分野にどのような影響を及ぼしたのかを理解し、説明できる。	
		13週	近代合理主義の影響：システムと生活世界		近代科学の根底にある合理主義について、J.ハーバーマスの議論の概要を理解し、説明することができる。	

		14週	科学・技術と人類の福祉	日本学術者会議などの見解を手掛かりに、科学・技術のあるべき方向とその可能性について検討する。
		15週	科学・技術と現代社会	後半の授業内容を振り返り、科学・技術と現代社会との関係について考察し、自分の考えを述べる（小論文演習）
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民	哲学者の思想に触れ、人間とはどのような存在と考えられてきたかについて理解できる。	3	前1,前3,前4,前5,前6,前7
				諸思想や諸宗教において、自分が人としていかに生きるべきと考えられてきたかについて理解できる。	3	前1,前3,前4,前5,前6,前7
				諸思想や諸宗教において、好ましい社会と人間のかかわり方についてどのように考えられてきたかを理解できる。	3	前1,前3,前4,前5,前6,前7
			地歴・公民	現代科学の考え方や科学技術の特質、科学技術が社会や自然環境に与える影響について理解できる。	3	前2,前7,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				社会や自然環境に調和し、人類にとって必要な科学技術のあり方についての様々な考え方について理解できる。	3	前2,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				環境問題、資源・エネルギー問題、南北問題、人口・食糧問題といった地球的諸課題とその背景について理解できる。	3	前9,前12,前13

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	0	20	100
基礎的能力	80	0	0	0	0	0	80
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	20	20